

表 1 対象者の人口学的グループ分けとアプローチ

人口学的変数	受け手(対象者)の例	場所の例	担い手	媒体の例	考慮すべき点
年齢別	児童・生徒	学校	教員 専門家	授業, 教材	発達段階を考慮
	高齢者	施設 地域 家庭	施設関係者 家族	対面, パンフレット, 集会	実践できる方法をわかりやすく
ライフサイクル	妊婦, 病人 その家族	病院 サークル	医師 看護師 知人	対面, パンフレット, 集会 ネット	特別な関心, ニーズに焦点を当て, リスク低減方法を伝える
	小さいこどもの親	保育園 幼稚園 サークル	保育士 教員 知人	対面, パンフレット, 集会, ネット マスメディア	
男女	女性	職場 サークル ネット	同じ立場の人 専門家 など	文書, ネット, 集会	知識, 経験レベルに合わせる
学歴, 職業	職業人				

表—1 リスク論争の構成とコミュニケーション方法

段階	問題の性質	コミュニケーションニーズ (主要な方法)	コミュニケーションのポイント
1. 専門的な知識の欠如	ハザードの程度のリスクの生起確率に関する論争	情報の伝達	公衆に近づくこと
			分かりやすい情報
			公衆の関心に注意をはらうこと
			問題の構成枠組みを理解すること
2. リスク対応機関の能力にかかわる問題	リスクとベネフィットの配分とリスク対応機関への信頼性に関する論争	利害関係者および公衆との対話	公衆の期待に添うような業績を上げること
			公衆の要求を聞く姿勢があること
			定期的に対話を行っていること
			危機的な状況への対応手続きが標準化されていること
3. 価値、世界観	科学的専門性、対応機関の能力、情報公開のいずれも有効でない	対話と調整	影響を受ける関係者のすべての代表が参加していること
			合理的な対話規則に従うことに関して、強制されたものではない合意があること
			利用できる限りの専門家が入っていること
			明確な権限と正当性があること

OECD Background paper: Risk Communication for Chemical Risk Management (2000)より、見やすくするために一部の表現を改変

表-2 さまざまな公衆参加手法とその評価

手法	概要	代表性	参加者の独立性	初期段階からの参加	事例	政策への影響	コストパフォーマンス
国民投票	1つの論点について国全体あるいは地域で投票する	高	高	一定	バイオテクノロジー（スイス）、廃棄物処理施設（スウェーデン）	高	不定/低
公聴会	関心のある市民や専門家、政治家たちが公衆の前で計画を発表する。聴衆は投票することもあるが、影響ある勧告とはならない。	低	一般的には高	一定	アメリカ、オーストラリアなど	中	低
国民意識調査	情報収集のために行われる。数百から1000人単位。	一般的には高	高	潜在的には高	放射性廃棄物処理施設（アメリカ合衆国）、遺伝子組み換え食品（英国）	間接的、評価困難	潜在的には高
交渉によるルール策定	利害関係者の代表が審議して決定する。ひとつの問題について合意が求められる。	低	中	不定	アメリカ環境庁	高	潜在的に高

コンセンサス会議	10人から16人の、当該問題について知識のない公衆の代表が、聴衆の前で専門家に質問をし、鍵となる質問に対する公衆の結論が公表される。	中	高	潜在的には高	放射線照射食品、大気汚染（デンマーク、オランダ）、バイオテクノロジー植物（英国）	不定。保証されていない。	中から高
市民陪審/パネル	12人から20人の一般公衆が地域の代表として選ばれ、非公開で専門家に質問をする。鍵となる質問に対する結論が公表される。	中	高	潜在的には高	ドイツ、アメリカ合衆国、英国	不定。保証されていない。	中から高
市民/公衆諮問委員会	スポンサーから指名された、多様な集団からの代表が問題を審議する。	中から低	中	不定。おそらく高。	廃棄物処理場の事後処理（アメリカ合衆国）	不定。おそらく高。	不定/低
フォーカス・グループ	5人から12人の一般公衆が自由に議論するもので、意見や態度の調査に使われる。一般的にはひとつの問題について複数のグループが用いられる。	中	高	潜在的には高	食物リスク（英国）	間接的	潜在的には高

出典：Rowe & Frewer (2000)

表-3 多人数で実施可能なワークショップ手法の例

手法	方法	時間	目的
質問バスケット	テーマに関する質問を考える	30分	質疑応答を促進する
ICHIBA	会場を歩き回りながら、お互いの意見を交換する	20分程度	考えを引き出す
ワールドカフェ	4-5人のテーブルに分かれて意見交換をすることを移動しながら繰り返す	可変 (不定)	参加者同士で意見を共有し、考えを深める
6つの帽子	特定の視点を参加者に割り当て、その視点から意見交換する	30分程度	多様な視点があることを理解する
コンセンサスゲーム (NASAゲーム)	ある問題に対するランキングを個人とグループとで比較する	60分程度	価値観の違いを理解し、合意を得るプロセスを経験する
ブレインストーミング	4つのルールのもとに、グループ全員で意見を出し合う	30分程度	問題の解決法を見いだす (話し合いがしにくい場合には、紙に書き出す手法もある)
Thirty-five	アイデアを交換し、それを評価し合う	20分程度	優れた意見やアイデアを発見する

堀・加藤(2008)、杉浦(2006)、Thiagarajan(2005)を参考に作表

引用文献

- 花尾由香里(2013) 厚生科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「行動科学に基づく対象者別リスクコミュニケーションの手法の開発と評価」(研究代表者吉川肇子) 平成25年度分担研究報告書
- 堀公俊・加藤彰 (2008) ワークショップ・デザイン 日本経済新聞出版社
- 吉川肇子(2013) 厚生科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「行動科学に基づく対象者別リスクコミュニケーションの手法の開発と評価」(研究代表者吉川肇子) 平成25年度総括研究報告書
- 小林哲郎 (2015) 食品リスクコミュニケーションにおけるマスメディアのゲートキーピング機能: 厚生労働省によるプレスリリースを題材に 厚生科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「効果的なリスクコミュニケーション推進のための調査と手法の評価」(研究代表者吉川肇子) 平成26年度分担研究報告書
- 杉谷陽子 (2014) ソーシャルメディアを用いた食品リスクコミュニケーションの検討: 知識量及び事前態度によるセグメンテーションの有効性 厚生科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「効果的なリスクコミュニケーション推進のための調査と手法の評価」(研究代表者吉川肇子) 平成26年度分担研究報告書
- Rowe, G. & Frewer, L.J. (2000) Public participation methods: A framework for evaluation. *Science, Technology, & Human Values*, 25(1), 3-29.
- Soroka, S. N. (2012) The gatekeeping function: Distributions of information in media and the real world. *The Journal of Politics*, 74(02), 514-528.
- 総務省情報通信政策研究所(2015)「平成26年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」
http://www.soumu.go.jp/main_content/000357570.pdf (2015年5月19日更新、2016年1月1日アクセス)
- Thiagarajan, S. (2005) Thiagi's interactive lectures: Power up your training with interactive games and exercises. ASTD Press.
- 杉浦淳吉 2006 意見対照ゲーム"ICHIBA"の開発 シミュレーション&ゲーミング, 16(2), 105-115.

